

**LA-2110、LA-2111、LA-5110、LA-5111、LA-5120 騒音計  
瞬時騒音レベルデータ  $L_A$  の連続保存**

---

## LA-2110、LA-2111、LA-5110、LA-5111、LA-5120 騒音計

### 瞬時騒音レベルデータ $L_A$ の連続保存

画面に表示されている瞬時騒音レベルデータ  $L_A$  のデータを 1s ごとに連続保存する方法を説明します。

#### 測定条件

動特性（時間重み特性）	FAST
周波数特性	A
測定間隔（Period）	1s
Memory Mode	Lp

#### 操作手順

##### 1. 出荷時の条件で起動

〔2nd〕ボタンと〔CAL〕ボタンを同時に押しながら電源を ON します。この操作により、出荷時の設定条件で起動します。

電源 ON だけでの起動の場合は、前回電源を OFF したときの設定条件で立ち上がりますので注意下さい。

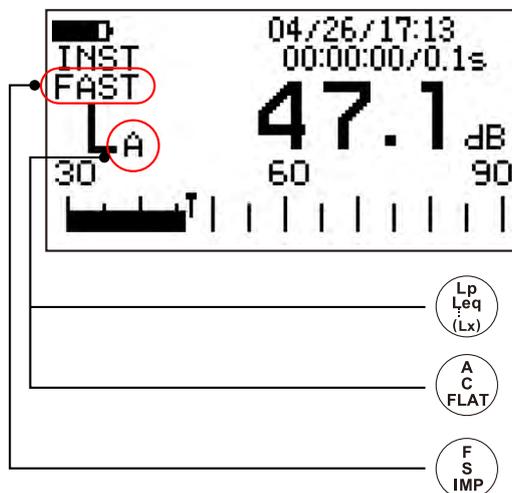
なお、ボタンを離すタイミングにより、画面に「CAL」または「2nd」の文字表示が残ることがあります。この場合、〔CAL〕ボタンを押すと「CAL」の文字が消え、〔2nd〕ボタンを押すと「2nd」の文字が消え、通常の測定画面に戻ります。

##### 2. メモリーのクリアー

電源 OFF 後、〔FILTER FREQ <、>〕ボタンを 2 つ同時に押しながら電源 ON すると、全メモリーがクリアーされて起動します。

### 3. 周波数特性と動特性の設定

初期設定では、「周波数特性：A 特性」、「動特性：FAST」になっています。設定条件を変更する場合は次の操作を行います。



- 1. [A/C/FLAT] ボタンで周波数特性「A」、「C」、「FLAT (P)」を選択します。工場騒音では通常「A」特性に設定します。
- 2. [F/S/IMP] ボタンで時間特性（動特性）「FAST」、「SLOW」、「IMP (impulse)」を選択します。一般的には「FAST」がよく使われています。

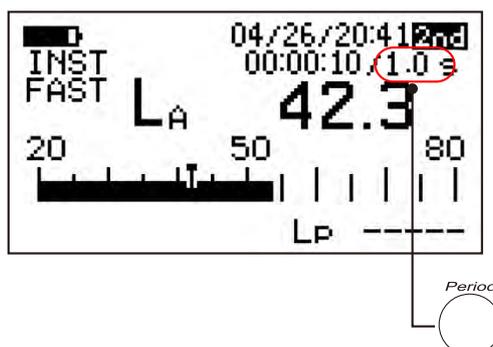
### 4. 測定レンジの設定

[LEVEL] ボタンで測定レンジを測定に適したノーマルレンジ（例：30 ~ 90dB）に変更します（ワイドレンジでも可能です）。

### 5. 測定間隔（Period）の設定

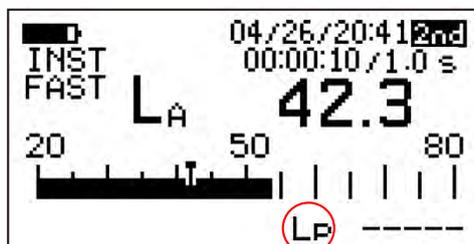
測定間隔を 1s に設定します。

- 1. [2nd] ボタンを押します。画面右上に「2nd」の文字が表示されます。
- 2. [Period.] 青字ボタンを何度か押し、時間間隔を 1s に設定します。このボタンを押す毎に時間間隔が 0.1s 0.5s 1.0s・・・の順に切り替わります。



## 6. メモリーモードの L<sub>p</sub> で連続測定 & 保存

- 1. 画面右上の「2nd」文字を表示した状態で、〔Mem Mode〕青字ボタンを何度か押し、メモリーモードを「L<sub>p</sub>」にします。



- 2. 画面右上の「2nd」文字を表示した状態で、〔Store〕青字ボタンを押します。「STR」の文字が表示され、「2nd」文字が消灯し、保存が開始されます。なお、「STR」文字が表示されない場合は、測定のみ実行し、データ保存はされていないので、ご注意ください。

1 s 経つと瞬時レベル測定データ L<sub>A</sub> を保存し、メモリー番号が自動で 1 つ繰り上がり、再び測定を開始し、測定が終了するとメモリーにストアされます。ストアを終了させるまでこれを繰り返します。データは最大 99999 個の保存が可能です。メモリーが一杯になると自動停止します。



- 3. 〔2nd〕ボタンを押し、画面右上に「2nd」文字を表示し、〔Store〕青字ボタンを押します。「STR」の文字が消灯し、連続測定 & 連続保存は終了します。

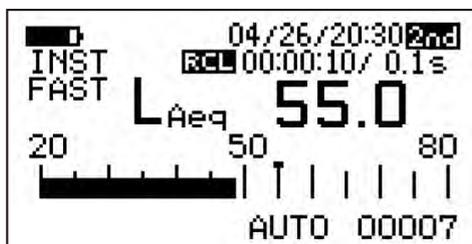
## 7. 保存データの再生

保存したデータを再生するには、次の操作を行います。

- 1. 〔2nd〕ボタンを押します。画面右上に「2nd」の文字が表示されます。
- 2. 「L<sub>p</sub>」モードのメモリー番号が表示されていることを確認します。表示されていない場合は、「2nd」文字を表示させた状態で、〔Mem Mode〕青字ボタンを押し、メモリーモードを「L<sub>p</sub>」にします。

- 3. [Recall] 青字ボタンを押すと、画面上に「RCL」の文字が表示され、データが再生されます。「RCL」文字が表示された状態で [Address ▲、▼] 青字ボタンを押すとメモリー番号が変更され、そのデータが画面に再生されます。なお、データが保存されていないメモリー番号は表示されません。

【リコール画面】



- 4. [Recall] 青字ボタンを押します。「RCL」文字が消灯し、測定画面に戻ります。
- 5. [2nd] ボタンを押します。画面右上の「2nd」の文字が消灯します。

## 8. 測定を繰り返す

測定を繰り返すには操作手順 1 から繰り返します。メモリーデータをクリアしないで新たに保存を開始するとメモリー番号は 00001 番から上書き保存され、上書きされないデータは残ってしまいますので、ご注意ください。全メモリーデータのクリアに関しては操作手順 2 を参照下さい。

## ■メモリーデータをパソコンで読む

メモリーに保存したデータは、ホームページのサンプルプログラムを使用して、RS232C によりお使いのパソコンに読み込むことができます。

<LA-2110/2111/5110/5111/5120 騒音計用サンプルプログラム>

[https://www.onosokki.co.jp/HP-WK/c\\_support/freeprogram/download\\_top.htm](https://www.onosokki.co.jp/HP-WK/c_support/freeprogram/download_top.htm)

### ●サンプルプログラムのメモリー読込画面



瞬時騒音レベルデータを読み込み EXCEL で開いた例

	A	B	C	D	E	F
1	周波数特性	A				
2	動特性	FAST				
3	測定開始時刻	00/01/01/05/08				
4	瞬時値データのモード=S					
5						
6	ADDRESS	Lp				
7		1	71.4			
8		2	74.8			
9		3	75.07			
10		4	74.92			
11		5	74.57			
12		6	75.47			
13		7	75.89			
14		8	75.84			
15		9	75.89			
16		10	76.27			
17		11	76.05			
18		12	76.4			
19		13	76.29			
20		14	75.86			
21		15	75.48			
22		16	75.46			
23		17	75.51			

以上